

マリレジャー安全レポート

第七管区海上保安本部
マリレジャー安全推進室
TEL 093-321-2931
E-mail:kyuunan7-j7vj2@kaiho.mlit.go.jp

第66号(平成23年1月)

海中転落の釣人が救命胴衣の笛により助けを求め無事救助

〈事例〉12月12日午前5時30分頃、Aさん(64才)は自己が所有するプレジャーボートB丸(長さ約6メートル、FRP製)に単独乗り込み定係港を出港しました。

沖合において遊漁を行った後、同日午前12時00分頃、釣り場を移動して大橋の橋脚から釣りをするため同橋脚に取り付けてあったロープ(約3メートル)を利用してB丸を橋脚に係留しようとしていたところ、風と潮流によりB丸が圧流され橋脚から離れてしまい、Aさんはロープを握ったまま海中転落してしまいました。

その後、AさんはB丸によじ登ろうとしましたがうまくいかず、そのうちB丸は流されてしまいました。AさんはB丸に乗り込むことを断念し、着用していた救命胴衣の笛を吹いて救助を求めました。

海中転落から約30分程経った頃、Aさんの横を貨物船が通り過ぎ、貨物船から連絡を受けたプレジャーボートC丸によりAさんは無事救助されました。

貨物船は、当初Aさんを視認した時、Aさんが着用していた救命胴衣(黄色)を工事用の黄色フイと思っており、船橋に見張り員をたて接近していたところ笛の音が聞こえ、さらに接近して事故者と判明したものです。



つければ深くぞう
ライフジャケット

ライフジャケット着用推進会議

平成22年12月
プレジャーボート等
海難発生隻数

合計	8隻
衝突	1
乗揚	2
転覆	0
浸水	0
推進器障害	2
舵障害	0
機関故障	1
火災	0
爆発	0
行方不明	0
運航障害	2
安全障害	0
その他	0

マリレジャーに伴う
海浜事故者数

合計人(6人)	
遊泳中	0(0)
釣り中	6(2)
サーフィン中	0(0)
カヌー中	0(0)
その他	0(0)

※()内は死亡
・行方不明者数



プレジャーボートB丸



着用していた救命胴衣



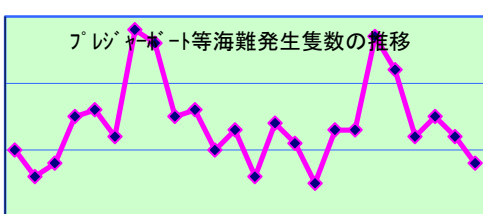
事故の教訓

今回の事案では、Aさんが鮮やかな黄色の救命胴衣を着けていたことで、貨物船から発見されやすくなったものと思料されます。

なお、船舶から海中転落したら自力で船舶に戻ることは大変困難です。

《自己救命策の三つの基本を遵守しましょう。》

- ・救命胴衣の常時着用
- ・118番の活用
- ・連絡手段の確保(携帯電話の携行、防水パックの利用)



一二月三四月五六月七八九十月十一月十二月
月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月 月
H21(確定値) H22(速報値)



発航前点検をお忘れなく！(燃料の点検)

* 船によって構造や機関の種類が異なります。詳しくは購入時の取扱説明書等を確認ください。

○ 燃料油量の確認

燃料タンクの油量は十分ありますか。気象海象の状況によっては、通常の航行より燃料消費量が増加することがあります。

出航時は航行予定を勘案し燃料油量の確認を行いましょう。



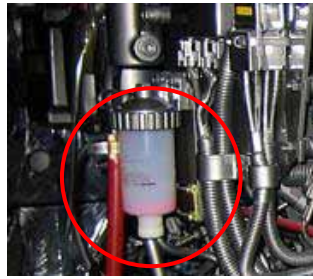
《豆知識》
燃料消費量 = 船体重量 × 速力³



速力を落とせば消費量が下がる

○ 燃料油水分離器の確認

燃料油水分離器に水が溜まっていないですか。
燃料油に水が混じるとエンジンが始動不能となることがあります。
分離器下部のプラグを緩め水を排出しましょう。



水の排出

○ 燃料フィルターの確認

燃料フィルターに目詰まりはないですか
目詰まりにより燃料が流れなくなると機関が停止します。
ごみの除去又はフィルター交換を行いましょ



燃料フィルター（船外機）



燃料フィルター
（船内機（ディーゼル））

○ 燃料油系統の空気の混入

燃料系統に空気が混入していませんか。（特にフィルター交換等の整備後）
空気混入によりエンジンが停止することがあります。
空気抜きプラグを緩め気泡が出終わるまでプライミングポンプ（プライマリポンプ）を突き、空気を抜きましょ



プライミングポンプ（船内機）



プライマリポンプ（船外機）



フィルタ空気抜きプラグ
（船内機）

○ 燃料漏油の確認

燃料ホースのひび割れ、損傷、接続部の漏れはないですか。
漏油により火災、爆発や燃料ホースに空気が混入する恐れがあります。
交換、取付け確認など整備・点検を行いましょ



漏油状況

○ 燃料タンクの空気抜き

使用時にはタンクの空気抜きバルブ「開」を確認していますか。
空気抜きを開けずに使用を続けると、燃料が供給されなくなります。
空気抜きバルブ（空気抜き管）が開いていることを確認しましょ



燃料タンク空気抜きバルブ